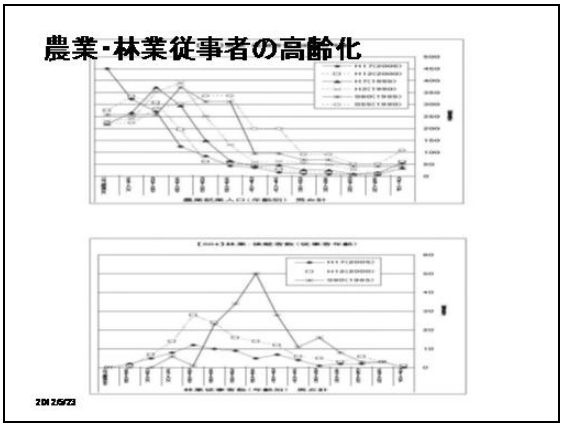
日南町民大学における講話から（日南の森林から地球を動から）　**最終**

これまで述べたように、木質バイオマスを活用することで、私たちのこの地域に多くの効果が出てくると考えています。
しかしながら、これを持続させるためには解決していかねばならない課題もあります。

・昭和 30 年代に行われた木材に関する輸入自由化以降、林業経営に与えている打撃
・材価の低迷、人口の流出等に伴う、山林所有・管理に対する意欲、熱意等の減退
・林業従事者・経営者の高齢化
・森林資源の高齢化・若い林齢の人工林がきわめて少なくなっていること
・相続等の行政（法的）手続きの不実施
・山林境界の不明化
・共有地における権利者の広域化・連絡困難
・これらの現実がもたらすこととして、外国資本の山林買収という社会問題

50 年前の輸入自由化によって、木材価格が低迷し、国内産材の流通が激減した。
現在、当地域では、㈱オロチの LVL 工場ができたことによって、一時、木材価格がぐっと下がりかけたが、その後、逆に、㈱オロチが価格を安定させてくれていると評価されている。



町内の高齢化もさることながら、第一次産業従事者の高齢化は進んでいる。
一方で、産出量の拡大に伴い、高性能林業作業機械を導入しているが、若い労働力の不足が課題になっている。
一方東京をはじめ大都市部では、「生きる実感」「やりがい・生きがい」を第一次産業に求める傾向も出てきている。
林業には雇用の大きな吸収力がある